

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 年 五 月

五月の日光

むく／＼として自然のいのちの盛りあがる五月の土に、草も木も、生育の力に張り切つてゐないものはない。しかも、盛りあがる土のいのちに晴々々笑みかけて、一切の生育を思ひのまゝに遂げさせてゐるものは、五月の日光である。

うつかり蒸し育てる春の日でもなく、厳しく促し立てる眞夏の日でもなく、たゞ自ら明るく、自ら爽かに、ひろ／＼と打ち擴がつてゐる五月の空である。その下にこそ、若葉も潤達の意氣を與へられ、若芽も進展の氣力をのび／＼とさせられてゐる。

強ゐて育てるのでもない。激しく勵ますのでもない。たゞ自らわだかまりなき明朗さにて、育つものを育たせてゐるのが五月の日光である。

(倉橋惣三)